

里親が提案する 支援のかたち



いばらき県北里親家庭支援センター

里親が里親家庭の支援について 考えてみました

提案A

マッチングよりも
委託後のフォローを！

提案B

柔軟なレスパイトを！

提案C

里親不調と呼ばないで！



提案A マッチングよりも 委託後のフォローを!

里親委託の前に、マッチングをする場合があります。このマッチングの期間が長かったり、短かったりします。一時保護からの委託の場合は、マッチングがありません💧

マッチングは本来、子どものためにはあるはずで、決して里親の「品定め」の期間ではないはずで。

そして、残念ながらマッチングの長さ＝養育の安定とはなっていない現状があります。もちろん、マッチングをゼロにしてくださいと言っているわけではありません。

むしろ、マッチングの期間を長くするよりも、委託後のフォローを手厚くしてほしいです。マッチングは慎重に長い期間行われ、委託後はワンオペ養育では本末転倒です。

委託後に、支援機関のスタッフや先輩里親、未受託の里親がシフトを組んで養育のサポートに入ることで24時間休みのない里親にも休憩する時間ができます。

また、養育中には様々な問題が起こります。危機的な状況に陥った時に、迅速にサポートができる体制を構築しておくことも、一緒に考えていきたいです。

提案B レスパイトを柔軟に！

里親にはレスパイトの制度があります。今のままで也十分助けになる制度なのですが、里子をどこかに預けるということに抵抗がある里親もいます。そこで、里親宅に手伝いに来てくれることで利用できる、「訪問型レスパイトケア」は実現できないでしょうか？宿泊を伴わない8時間以内でのヘルプの人員が入ることで、子どもは移動せずに済みます。

また、里親は基本的には夫婦しかいませんので体制としては脆弱です。近隣の里親同士が日頃から里子を交えて交流を持ち、緊急時にはいつでもそこにレスパイトができるネットワークも構築したいです。何かあったら親戚に預ける・・・そんなイメージでレスパイトをより柔軟な制度として活用できないでしょうか？

提案C 里親不調と呼ばないで！

里親養育は時にうまくいかず子どもが委託先を変更になってしまうことがあります。それを「里親不調」と呼ばれます。これだけを聞くと、里親だけに起きている問題なのでは？と里親養育のイメージダウンにつながっています。施設でも、職員さんが辞めてしまうこともあるでしょうし、施設内で子どもの居所が移動になってしまうこともあります。もちろん、被措置児童等虐待が里親側にあればそれは「里親不調」だと思います。しかし、それ以外の理由での「委託先変更」を不調と呼ぶのはやめませんか？あくまで「委託先変更」でお願いしたいです。